

令和7年度 第2回 住吉区地域福祉専門会議 会議要旨

- 1 日時 令和7年10月30日(木) 午後6時から午後8時
- 2 場所 住吉区役所 4階 第4・5会議室
- 3 出席者
(委員)
宮川委員、多賀谷委員、殿井委員、八牟禮委員、藤居委員、松岡委員、三橋委員、山野委員
小野アドバイザー
(区役所他)
区長、副区長、関係課長、課長代理、担当係長、住吉区社会福祉協議会事務局長、地域支援担当係長

4 議題

【報告】

- (1) 住吉区地域見守り支援システム進捗状況について
- (2) 区政に関するアンケートについて

【議事】

- (1) 重点取組事項の進捗状況について
- (2) 区政に関するアンケートで頂いたご意見に対する対応方針について

【その他】

- 「つながり・みまもり・支えあいシステム」別紙について

5 議事要旨等

【報告】

- (1) 住吉区地域見守り支援システム進捗状況について
 - ・ 別添資料1のとおり
 - ・ 施設入所者の削除について、今回より対象とする施設の範囲を広げたことにより削除者数が増加。
- (2) 区政に関するアンケートについて
 - ・ 別添資料2のとおり

【住吉区地域福祉専門会議でご議論頂いた主な取組】

- ・ 別添資料3のとおり

【議事(1) 重点取組事項の進捗状況について】

【主な報告】

- ・ 地域のイベントへの取材や、地域の活動者へのインタビューを実施し、その内容を区ホームページで発信した。また、地域イベントチラシのコンテストによる広報活動の強化への働きかけを行った。今後は、地域の活動者へのアンケートを実施予定。
- ・ 地域座談会の開催支援(予定)
- ・ 子ども中心のイベントの開催支援(予定)
- ・ 区民まつりにて、区内中学生と区長との対談『住吉区への未来に向けた提案』を実施
- ・ 大学生等と社会課題解決のための取り組み支援、地域とのマッチング(予定)

【主な意見】

- ・ 活動者へのアンケートについては、オンライン(QRコード・行政オンラインシステム)と紙媒体との併用を検討。
- ・ アンケートを実施する目的の明確化が課題。(地域福祉の担い手不足をなんとかしたい)
- ・ 新たな担い手が入るための動機付けという面では、活動の成果や、活動による変化、やってよかったことや、工夫などを聞いたほうが良い。また、アンケートは現状を調査するだけではなく、「こういう活動がある」ということを広く知ってもらうためのアナウンス効果もあるので、幅広く実施しても良いのでは。

【議事（2）区政に関するアンケートで頂いたご意見に対する対応方針について】

区政アンケートの意見に対する主な回答・報告

- ・地域福祉ラインの会議体が課題解決に十分機能していないというご意見については、各種会議体での課題や議事を地域福祉専門会議で報告、共有し、関係部局への確認、働きかけを行うことで課題解決に取り組む。
- ・あんしんさぼーとの待機期間、認知症高齢者の金銭管理、キーパーソン不在、8050問題、認知介護など各種会議体で議論された課題について、区全体で共有すべきものについては地域福祉専門会議にて議論し、各種会議体にフィードバックを行う。
- ・課題の抽出は委員だけでなく、幅広くアンケートで意見を求めるべきというご意見については、地域や各関係機関との様々な機会を通じて福祉課題を聴取するとともに、幅広く意見を聴取する手法について、検討を行う。
- ・区レベルにおける地域福祉の各種課題への取り組み状況等について、各会議体、関係機関で共有、検証できるよう進捗管理を行う。
- ・権利擁護に係る支援制度について、認知症や障がい等で判断能力が不十分な人の権利を守るため、法定後見（家庭裁判所で選任）と任意後見（公証役場で将来に備えて手続き）の制度がある。後見制度は判断能力に応じて「後見」「保佐」「補助」に分かれ、財産管理・契約等の支援を行う。日常生活自立支援事業（あんしんさぼーと）は、各区社会福祉協議会が運営し、日々の金銭管理や福祉サービス利用の支援を行う。
- ・住吉区あんしんさぼーと事業の現状について、利用者は認知症高齢者や障がい者等、年間100人～130人。金銭管理サービスは月1回～週1回など利用者によって幅がある。昨年9月は最大60件、1年3カ月の待機期間があったが、今年10月現在は10数件の待機となっており、待機期間が短縮されている。

主な意見

- ・高齢者支援の現場では、金銭管理やキーパーソン不在のかたの支援について、解決法が見つからず、事業所がリスクを負って金銭管理をしているという現状がある。このような地域課題をこの会議で協議したい。
- ・高齢者支援について、権利擁護だけでは対応しきれない死後の問題もある。あんしんさぼーとの待機期間について、情報が現場に届いていないことも問題である。
- ・家族がいても遠方に住んでいて、近くにキーパーソンがいないかたも多く、ケアマネジャーのシャドーワークが問題になっている。金銭管理の問題は全国的なものなので、今後も地域包括支援センター運営協議会などに発信していきたい。
- ・会議体同士の連携や情報共有のありかた、情報発信のありかたを検討していく。
- ・『つながり・みまもり・支えあいシステム』の真ん中の専門職の部分がどんどん太くなり、そこでの課題が見えてきたという段階。そういった課題をこの会議で話し合うのもひとつの方向性であるが、地域福祉でどんどんやるが増えて、題材が多い中で、それだけではなく、地域座談会を進めていくというようなポジティブな地域福祉のありかたについても議論すべき。
- ・あんしんさぼーとの待機期間が問題になることについて、この事業にもっと予算がついて、人員が満たされれば解決するという視点もあるが、現状に則してどうカバーできるのか、予防策はないのかを地域課題として考えるという視点もある。

【その他】

「つながり・みまもり・支えあいシステム」別紙について

- ・前回の地域福祉専門会議でいただいたご意見をもとに、増進型福祉と地域共生社会を表現するような文言とイラストを追加した。
- ・今回提示したシステム図を完成として、今後、住吉区地域福祉ビジョンの別紙として活用する。
- ・子育て分野の支援についても、もう少し目を向けてほしい。

6 令和7年度の開催日程について（予定）

第3回 令和8年 2月19日（木） 午後6時から